

図書だより

令和5年 10月号
三島高等学校 図書委員会

My Favorite Books

今回は、坂東 大輔 先生 です！！



Q簡単な自己紹介をお願いします。

今年度転任してきました坂東大輔です。教科は数学で、102の担任をさせていただいています。また、ラグビー部の顧問をさせていただいています。出身は西条市で、西条高校を卒業後、愛媛大学の理学部数学科に進学し、卒業しました。高校でラグビーを始め、大学でも続けた後に指導者として今もラグビーに関わっています。そのため、趣味はスポーツになります。特技は妻を怒らせることです。

Q学生時代に感銘を受けた本、皆に読んでほしい本を教えてください。

部活動と勉強の両立で精一杯だったため、なかなか読書をする時間がとれませんでした。その中で、教員になりたいという思いは持ち続けていたことから、水谷修先生の、「夜回り先生」シリーズはよく読んでいました。ただ勉強を教えるだけでなく、様々な子供たちがそれぞれ抱える悩みに真剣に向き合う水谷先生の姿に感銘を受けた覚えがあります。

Qみなさんに読んでほしい本を教えてください。

大学卒業後、妻と出会いました。趣味は全くの正反対で、気が強く、私の意見を簡単にぶっ飛ばしてくれる初めての存在でした。そんな妻は当時から特別支援学校に勤めており、発達障害に関する知識や感性は私に無いものを持っていると感じていました。そんなある日、妻が持っていた本にふと目が留まりました。タイトルは「光とともに…～自閉症児を抱えて～」という本でした。全15巻のマンガで、後にドラマ化されたこの本を、当時は何も知らない状態で興味本位に読んでみました。すると、純粋にストーリーに引き込まれつつ、自閉症についての正しい知識をどんどん得ることができました。それと同時に、それまでの自分が無知であったが故に、知らず知らずのうちに多くの人を傷つけていた経験があることに気づき、恥ずかしさや後悔が波のように押し寄せてきました。それ以降、発達障害について積極的に学習をするようになり、そのことが今の教員生活でも生かされていると感じています。何より、自閉症である妻の弟に義理の兄として認めてもらえ、仲良くなれたこともこの本のおかげであると感じています。

今回紹介した「光とともに…～自閉症児を抱えて～」は、知っている人も多く、学校の図書館等にも置かれているかもしれません。そのため、今回は「読んでほしい本」を紹介したのではなく、「本を読んでほしい」ということを紹介させていただきました。正しい知識や感性を得るために、読書は非常に大切であると思います。

Q三高生に一言！

「知らなかったから…」では許されないのが社会です。正しいことを知らなかったことで、知らず知らずのうちに誰かを傷つけ、さらにはその行為によって自分自身を悪者にしてしまいます。そうならないために、多くのことを学び、正しい知識を身に付けてください。大切な誰かを守るために、そして何より皆さんが幸せな人生を送るために、これからも日々勉学に励んでください。



坂東先生、ありがとうございました！！



2年3組図書委員のおすすめ本紹介♪



『傑作はまだ』 筆：瀬尾まいこ

血はつながってる。だけど家族じゃない。そこそこ売れている引きこもりの作家、加賀野の元へ生まれてから一度も会ったことのない息子の智が突然訪ねてきた。父は十万の養育費を振込み、息子の写真をもらう、それが唯一の関わりだった二人。戸惑う加賀野だが「しばらく住ませて。」という智に押し切れ、初対面の息子と同居生活を送ることに。孤独に慣れ切った世間知らずな父と、近所付き合いも完ぺきにこなす健やかすぎる息子、血のつながりしかない二人は家族になれるのか？タイトルの意味を読み終わってからしみじみと感じる一冊です。

『死の淵を見た男』 筆：門田隆将

2011年3月11日、日本を未曾有の大災害が襲った。文字通り「死の淵」に立った日本。福島県浜通りを含め多くの街を襲った津波は福島第一原発の原子炉を暴走させた。このままでは地元福島が壊滅するだけでなく、日本が三つに分かれてしまう…そんな中壮絶な戦いをした男たちがいた。あの日、あの時、あの場所で何が起きていて、どう戦っていたのか。2023年8月24日、処理水の海洋放出が始まった。そんな今だからこそ読んでほしい一冊です。



2年3組図書委員さんありがとうございました😊



気温も涼しくなり、「読書の秋」にピッタリな季節になりましたね。
みなさん、ぜひ書店や図書室で秋に読みたい本を探してみましょう！

